

平成26年度
和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館の使命	3
全体評価	4
1 展覧会（企画展）	5
1 展覧会（常設展）	10
2 調査・研究	16
3 作品・資料の収集	17
4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	18
5 教育普及	19
6 国内外との連携	22
7 安全と快適性	23
8 入場者数と財源の確保	25

和歌山県立近代美術館の使命

芸術は、私たちに楽しさや深い感動、精神的な安らぎをもたらします。芸術作品に触れることで、人は豊かな人間性を涵養し、未来への創造力を自らのうちに育むことができます。

和歌山県立近代美術館は、展覧会等を通じて人々に国内外の優れた美術文化に接する機会を提供し、地域や学校と連携しながら各種事業を通じて学校教育や生涯学習を支援することをめざします。そうした活動を通じて文化による地域作りを活性化し、文化資源の保全と活用を図り、文化芸術を担う人作りの推進に努めます。

このような目的を実現するため、以下の基本方針をもって臨みます。

1 魅力ある展覧会を開催します。

県民に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、魅力的な特別企画展・企画展を開催するとともに、充実した館蔵品コレクションを活用して常設展を開催します。展覧会は次の4つの方針によって開催します。

①国内の近現代美術を紹介、②海外の多様な美術を紹介、③和歌山ゆかりの優れた作家を紹介、④現在活躍している若手作家を紹介

2 調査・研究の充実を図り成果の公表と反映に努めます。

美術史等の研究に寄与するため、充実した調査・研究を行い、その成果を展覧会や教育普及活動等に反映させ、印刷物、インターネット等を通して公開します。

3 作品・資料の収集を行います。

美術作品収集方針に沿って作品・資料の収集を行い、県民の文化遺産のさらなる形成に努めます。

4 所蔵作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備を行います。

収集した作品・資料を文化財として活用し、文化遺産として未来に伝えるため、状態調査及び保存修復、保存環境の整備に努めます。

5 地域と連携し学校教育や生涯学習を支援します。

地域の学校と連携して、子どもたちが団体鑑賞、体験的プログラムに参加できる環境を整備することによって、また鑑賞教材の作成等を通じて、幅広い学習支援を行います。多様化する県民の関心に応えるため、ワークショップや解説会への参加等を通して生涯学習の支援を行います。またボランティアや友の会との協働を図り、他の県立博物館施設をはじめとする生涯学習施設・関係機関・団体等と連携します。

6 国内外の美術館や関連組織等と連携し、多様な活動を展開します。

これまで深めてきたわが国の美術館や関連組織等との信頼関係を基に、さらなる学術交流を行い、より質の高い、幅広い事業を展開するように努めます。国内外の美術館に所蔵作品・資料を貸し出すことにより、当館の優れたコレクションの魅力を発信します。本県の美術文化の発展並びに博物館活動を通じて広く知的資源の蓄積に寄与できるよう努めます。

7 利用者が安全で快適に利用できるよう美術館運営を行います。

すべての利用者が安全で快適に利用できるよう、施設・設備の維持管理を行うとともに、危機管理、安全、アメニティーに対する職員の意識向上に努めます。また施設の美観の保持と衛生管理に努めます。

全体評価

美術館長による評価	<p>財政状況の厳しい中で、それでも例年と比べて遜色のない事業展開ができたことは評価に値する。展示において、館藏品中心にならざるを得ない状況下で、独自の企画性を発揮した展覧会を、質を落とすことなく実施できたのも、調査・研究活動の裏付けによって、活発な収集活動が維持できていることが背景にある。これらの諸事業を有機的に連結させ、一層の努力を重ねることで陳腐化することのない美術館活動を展開して欲しい。</p> <p>また、不断の教育普及活動を展開することで、特に夏期に美術館の賑わいが見られたことは評価できるが、情報発信や広報活動に一層の創意工夫を凝らすことで、通年の賑わいが実現するよう望みたい。</p> <p>作品・資料の保存・管理、施設の維持など、平常業務においても大過なく適正に行われ、かつ少しずつではあるが改善が見られることは評価して良い。</p>
評価部会による評価	<p>展覧会事業費の制約によって、企画展の大部分は、所蔵品によるものである。したがって常設展の特集と重複して、同じことの繰り返しという印象を与えやすい。その点でいろいろ工夫をしてはいるようだが、「観光する美術」が意外な切り口をみせたように、外部の眼をとりいれるなど、美術館の常套的構成とは異なる新しい発想や冒険が望まれる。</p> <p>美術館活動の基礎となる調査研究と資料収集活動が着実に進められているのは、この美術館の特色として高く評価できる。</p> <p>学校、市民団体、芸術家など多くの人々と連携した館内外の多彩な教育普及活動の試みは、美術館活動に新しい展望をもたらす可能性があり、注目される。コンセプト、実践、評価などを整理して共同で記録集を作成するなど、方法の点検も必要であろう。</p>

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	館蔵品中心に構成せざるを得ない状況で、担当の創意工夫でそれぞれの内容に特色を持たせ、全体的に充実した展示が来館者満足度を高く維持した点は評価できる。さらに満足度を高めるために、各方面に細心の注意を払い、結果として集客力アップにつなげる努力を期待したい。
評価部会による所見	企画展とは言っても、ほとんどは所蔵品展であり、[作品を借用する]企画展と呼べるものはリアル展のみ。同展は大体評価できるが、5作家共通の問題意識を、もう少し旨い言葉で表に出すべき。デスティネーションキャンペーンにあわせた「観光」展は、所蔵品を違う視点から見直した企画で、積極的に評価できる。他の展覧会の内容は地味で新味はなく、集客力にも期待できないが、資料の収集や研究と連携しており、予算の割に、全体的によく努力しているといえる。企画展の果たす役割を見直して、「いつ行っても一緒」という来館者のイメージを払拭し、企画展を差別化する努力を行うべき。

①企画展-1

建畠覚造と戦後の彫刻 かたちをさぐる

会 期：4月22日（火）～7月6日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成26年度目標	和歌山県にゆかりのある彫刻家、建畠覚造の仕事の全体像を、当館の所蔵品を中心に紹介する。合わせて、建畠と同時代に活躍した彫刻家の作品を紹介することで、戦後の日本彫刻の歩みもたどる。建畠覚造については、展覧会に合わせ、2700点あまりの寄贈申し出を受けたドローイング類の整理を行う。彫刻作品はもちろん、そのドローイング類を展示することで、これまで紹介されることがない新しい作家像を示す。展示点数：12作家 137点
自己評価・課題・改善案	展覧会に合わせてドローイングの整理を行い、彫刻作品とともに展示することで、建畠の創作の過程を紹介するこれまでにない展示となった。ドローイングはごく一部を紹介するにとどまったので、今後さらに調査を進め、別の形で紹介を考えたい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成26年度目標	出品目録、パンフレットを制作する。
自己評価・課題・改善案	チラシ、出品目録とともに、A5判16ページのパンフレットを作成した。パンフレットにおいては、整理が済んだドローイングの図版も活用することで、彫刻作品が生まれるまでの制作の過程を示すことができた。今回はかなわなかったが、調査研究の成果を将来、ページ数の多いカタログにすることが課題である。

C. 関連事業

平成26年度目標	フロア・レクチャーを4回開催する。
自己評価・課題・改善案	フロア・レクチャーを4回開催した。展示されたドローイングと彫刻を対比することで、建畠の創作の過程についても実感していただくことができた。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成26年度目標	コレクション展において、父親である建畠大夢の作品や、影響を受けたヘンリー・ムーアの作品を紹介することで、より多角的に建畠覚造の仕事を考えることができる機会としたい。
自己評価・課題・改善案	建畠大夢の作品や、戦後、抽象表現の影響を受けたヘンリー・ムーアの作品、戦後の日本彫刻などを同時に紹介することで、近代から現代へといたる日本の彫刻表現の展開を建畠の仕事とともに考える機会を提供できた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成26年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	彫刻作品が多かったため、作品、来館者ともに事故がないよう作品の配置や結界の設置などを工夫した。そのことにより特にトラブルはなかった。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	3,600 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,030 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.5

①企画展-2

なつやすみの美術館 4 「生きている！」

会 期：7月12日（土）～9月23日（火・祝）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	若年層を中心に楽しく美術に触れる経験ができる場を生み出す。展示点数：60 作家 100 点
自己評価・課題・改善案	幅広い時代、ジャンルの作品から「生きている」をキーワードに作品を紹介することで、大人から子どもまで、親しみやすい展示を行うことができた。また小・中・高の教員と連携を図り、各年齢向けのワークシートを4種制作し、夏休みの課題に設定することで、生徒たちが美術館に親しむ機会を生み出すことができた。和歌山大学学生がガイドを務める鑑賞会を7日間、合計 21 回実施し、より来館者が美術館を楽しめる機会を設けるとともに、学生らの学びの場としての機能を、本展覧会に付することができた。展覧会を訪れた人々が、更に美術についての関心や知識を高める手段を示すことが課題である。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	ポスター・チラシ・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシ、出品目録(A4 判 8 頁)、教員との共同による鑑賞ワークシート(小学校低学年版:A4 判 4 頁、小学校高学年版:A4 判 4 頁、中学校版:B5 判 4 頁、高校版:A4 判 4 頁)、大学生による鑑賞ワークシート(A3 判 2 頁)、英語版概要チラシ(片面 A4 判)

C. 関連事業

平成 26 年度目標	フロア・レクチャーを 5 回、こどもギャラリートークを 3 回、たまごせんせいと「わくわくアートツアー」を 20 回開催する。作家のパフォーマンスや対話を通して主体的な体験としての鑑賞に導くことをめざす。
自己評価・課題・改善案	NPO 法人和歌山芸術文化支援協会との共催によりマドモアゼル・シネマのパフォーマー2 名によるダンス・ワークショップを開催した。フロア・レクチャーを 3 回、こどもギャラリートークを 4 回、和歌山大学学生による鑑賞ガイド「たまごせんせいとわくわくアートツアー」を 21 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 26 年度目標	個々の作品について鑑賞する切り口を簡単な言葉で示す。
自己評価・課題・改善案	個々の作品について、描写内容や注目される観点を 4 行で記述、キャプションに併せて掲示することで、作品の読解への導入を試みた。文字の分量を減らし、簡潔な記述にとどめることで、作品への関心をより高め、読解に誘導することができた。高められた関心を、更に継続して深められる題材の提供が課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	幼児が作品に接触する事故があった。低年齢の来館者が多いことを勘案し、結界の増設などの対応が必要である。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	13,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	11,730 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.2

①企画展-3

和歌山から始まる旅 観光する美術

会 期：11月1日（土）～12月7日（日）

会 場：展示室 C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	美術館の展覧会にもとから関心のある人だけでなく、その周辺の人々の潜在的な関心をひきだす。展示点数：40 作家 120 点・資料 30 点
自己評価・課題・改善案	デスティネーションキャンペーンに合わせて企画した展覧会であるが、「観光」という親しみやすさから、作品そのものの魅力に踏み込んでいただけた。ほぼ所蔵作品で構成したことによって、当館コレクションの魅力をコレクション展とは異なる切り口から提示した。とくに和歌山にかかわる作品を集め、美術だけでなく和歌山の風土への関心を高めることができた。県外からの来館者の割合も多く、観光で和歌山を訪れた方が美術館へも足をはこんでくださった。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	ポスター、リーフレット・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	集客を目的として、当初計画していたリーフレットのかわりにチラシを制作した。ポスター、ちらしとも好評だったが印刷部数が少なく、広報効果がとくに高かったとは言えない。美術が難解だという印象を避けるため、今回は簡易印刷で制作する出品目録は極力シンプルにしたが、別冊で解説を充実させるとより満足度が高まったと考える。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	講演会を 1 回、フロア・レクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	3 回のフロアレクチャーを行った。「観光」というテーマにあわせて、洋画、日本画から現代美術までを巡る一時間の「ツアー」形式をとり、気軽に参加していただけるようにした。参加者の反応から、楽しんでいただいているという実感が得られたが、もっと長い時間、レクチャーしてほしいという要望もあった。一時間で一応レクチャーを終わり、あとは希望者と「オプションツアー」と称して作品を見ながら対話した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 26 年度目標	新旧の名所図絵を展示し、時代の変遷や比較を楽しんでもらえるよう展示や解説で工夫する。
自己評価・課題・改善案	描かれた風景の変遷とともに、時代の変化による関心の移り変わりや、観光する目的地が変わっていくことを作品と資料によって示した。作品へのアプローチが難しいと受け取られることを避けて、それぞれの作品に加えた解説はごく短くするように心がけた。和歌山大学の観光学部と教育学部の学生の協力を得て、作品に描かれた和歌山県内の場所を紹介する「わかやまっぷ」を制作した。しかしもっと詳しく知りたいという希望もあったので、今後は解説集の制作が課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	観光で和歌山を訪れる、博物館施設にはあまりなじみの少ない来館者に配慮して、見通しのきく展示構成を行い、展示作品の安全のため、わかりやすい注意喚起表示を心がけた。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	2,400 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,885 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.2

①企画展-4

『月映(つくはえ)』展 田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎——木版にいのちを刻んだ青春

会 期：平成 27 年 1 月 17 日（土）～3 月 1 日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	『月映』に関する決定版と言える展覧会を開催し、その内容を多くの人に紹介する。展示点数：5 作家 300 点・資料 30 点
自己評価・課題・改善案	『月映』に関する最新の知見を盛り込んで作品を集め、当館が 1980 年代から継続してきた活動成果をまとめて披露する機会とした。『月映』の詩歌や田中恭吉の日記書簡の紹介が図録での部分的なものにとどまり、展示に活かせなかった。今後あらためて紹介する機会を作りたい。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	図録・ポスター・チラシ・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	図録は A5 判 380 頁で、出品作すべてをカラー掲載し、関連事項をできるだけ図版と合わせて紹介した。ポスター、チラシを制作した。A4 判 8 頁の出品目録を制作した。図録では『月映』の詩歌や田中恭吉の日記書簡の紹介が図録での部分的なものにとどまり、今後あらためて紹介する機会を作りたい。出品目録の文字がかなり小さくなり、可読性に問題があった点を今後の改善点とする。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	講演会を 1 回、フロア・レクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	講演会を 3 回、フロア・レクチャーに代えてスライド・レクチャーを 2 回開催した。講演会は月映作品を伝えていく役割や責務を語るという、当館にとっては意義のある内容となったものの、やや新味に欠けた。展覧会初日のスライド・レクチャーには準備不足の面があった。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 26 年度目標	和歌山県立近代美術館の所蔵品を中心に企画し、他府県の美術館でも開催する。東京藝術大学保存科学研究室との共同調査を行う。
自己評価・課題・改善案	宇都宮美術館、愛知県美術館、東京ステーションギャラリーとの巡回展にできた。紙本保存修復家 坂本雅美氏のコーディネートにより東京藝術大学保存科学研究室との作品調査が実現し、坂本氏による調査報告書を図録に収録した。現在見えている色彩が制作時は異なるものだったということなど、新知見として興味深い内容だったが、展示パネルなどで視覚的に説明できれば、さらに関心を呼ぶことができたと思われる。今後の改善点としたい。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	紙本作品については修復が必要なものは複数年計画で処置を進め、マット装・額装について万全を期して準備に当たった。グレージングのない油彩画は床面にテープを貼ることで近づかないように示した。壁面やケース類の固定を行い、十分な広さの通路を確保し、来館者の安全確保を行った。展示室の温度が夏期設定のまま高くなっていた。監視体制の強化が必要である。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	3,500 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,749 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける 10 段階評価の満足度について、平均値を 6 以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.6

①企画展-5

和歌山と関西の美術家たち リアルのリアルのリアルの

会 期：3月14日（土）～

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成26年度目標	基本的には各自の個展形式で紹介するが、現代の美術、特に関西の美術に顕著に見られる問題意識を本展覧会のテーマに据え、共通する視点が見い出せるように、展示を構成する。作家たちもテーマについての議論を重ね、新作の制作に企画担当学芸が助言を行いつつ、展覧会に向けた新たな取組みを促す。展示点数：5作家 46点
自己評価・課題・改善案	作家と議論を重ねることで、それぞれが新しい表現に取り組み、質の高い出品作の制作へとつなげることができた。さらに、当館が新しい美術にも目を向け、積極的にその動向にも関わろうとしている活動的な美術館であるというイメージを県内外に発信することができた。結果、当館のイメージアップにもつながっていると考える。こういった現代の美術をとりあげる機会は、当館にとっても大切であり、継続すべきことであるが、それを継続できる体制を作ることが課題である。

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成26年度目標	ポスター、チラシ、パンフレット、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	ポスター、チラシのほか、DMを広報印刷物として制作した。出品目録には、解説文を併記し、解説付きの目録とした。またパンフレットではなく、96ページの展覧会図録を刊行できたことにより、各作家の仕事をより深く紹介することができた。

C. 関連事業

平成26年度目標	出品作家たちによるトークイベントを1回、学芸員によるフロア・レクチャーを2回実施する。
自己評価・課題・改善案	オープン当日に、5人の作家それぞれによるアーティスト・トークを開催し、100人近い参加者を集めた。また学芸員によるフロア・レクチャーは2回開催し、楽しく出品作品を理解していただく機会を設けた。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成26年度目標	活躍めざましい若手の現代美術家たちを、ここ和歌山から発信する展覧会として、県内のみならず他府県から大いに注目される企画となるよう、プレスリリース、広報印刷物を通して、県外に積極的に周知し、新たな来館者層を獲得することを目指す。
自己評価・課題・改善案	出品作家から了解をとり、会場での撮影を可能とすることで、来館者がSNSやブログを通じて展覧会を紹介し、口コミで展覧会の情報が広まることになった。その内容を見ても、関西圏を中心に、これまであまり当館に来たことがなかった来館者の関心を集めていることが分かる。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成26年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作家の希望もあり、結界などの設置を通常の展覧会より控えめにした。会場スタッフの対応のよさもあり、安全を確保することができた。

F. 入館者数

平成26年度目標	1,100人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,199人

G. 入館者の満足度

平成26年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は8.7

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	各コレクション展に、すべて「特集」を併設し、陳腐化しがちな常設展に多彩な変化と、複眼的な切り口を盛り込んだことは評価できる。しかし、企画展と差別化できぬ小企画が並んだ感じは否めず、今後特別予算等を企画展に充ててメリハリを持たせ、常設では企画展にない親しみやすさを演出するなどの工夫が望まれる。
評価部会による所見	常設展でもいろいろな企画をし、努力のあとも見えるが、常設展の最初の入口で新鮮なインパクトを与える等、配列の工夫がほしい。発想も常套的である。担当者一人で進めるのではなく、外部の人の目、外部の人の観点、他の職員の意見を取り入れてはどうか。（外部のアーティストや市民をゲストキュレーターにした企画は国内外で大体失敗しているという意見もあり）

②常設展-1

コレクション展 2014-春 特集：モノクロームの世界

会 期： ～5月25日（日）

会 場： 展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	常設展示 所蔵作品への理解を深められるテーマを設け、当館のコレクションを紹介する。展示点数:58 作家 69 点 特集展示 モノクロームによる版画と写真という二つの表現を軸に、1) 黒と闇、2) 黒のテクスチャ、3) 白と透明、4) 光を捉えて という4章により構成。普段は意識していないが、創りだされた作品世界を大きく支配している色の持つ表現の力に目を向け、それぞれの魅力を紹介する。展示点数:18 作家 96 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 コレクションの多様性を紹介することができた。 特集展示 コレクションを中心に版画と写真を重点的に展示したが、造形要素を限定して作家・作品を取りあげたことにより、それぞれの特性や魅力を際立たせることができた。また、展示の時点では借用の扱いであった作品は、展覧会終了後の購入ないし受贈へとつながり、展覧会活動を通して当館のコレクションの幅を広げることができた。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 リーフレット・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を作成した。 特集展示 解説リーフレット(A5 版変型 8 頁)および出品目録を作成した。図版は美しく掲載できたが、文字のサイズや判型など、可読性について反省すべき点がある。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	特集展示 フロア・レクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	特集展示 フロア・レクチャーを 3 回実施し、来館者に直接、作品について深く理解してもらえた。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 26 年度目標	常設展示 同時開催の「建島覚造と戦後の彫刻」展や、「モノクロームの世界」展に関連づけた出品内容とする。 特集展示 抑制された表現による作品の魅力が高められるよう、空間に余裕をもたせた展示を行う。寄贈作品の中からは初めて展示する作品を含め、また所蔵品だけでなく1作家から7作品を借用し、来館者に新たな美術の動向を紹介できるようにする。
自己評価・課題・改善案	常設展示 戦後の抽象彫刻など、同時開催の企画展や特集展示に関連したコーナーを設けることで、多様な美術表現の展開を紹介することができた。 特集展示 展示空間のゆとりや効果的な照明に、来館者から評価を得た。また特集展示ながら日経新聞の美術記事としても取りあげられ、注目を集めた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示 大型の彫刻作品も展示したが、結界などにより、作品の保全と来館者の安全の保持をはかった。 特集展示 展示空間のゆとりは、作品の保全および来館者の安全確保にもつながった。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	2,400 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2,289 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.3

②常設展-2

コレクション展 2014-夏 特集：生誕 120 年 大亦観風

会 期：6 月 3 日（火）～9 月 4 日（木）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	常設展示 コレクションの特色を出し、均衡のとれた内容にするとともに、会期中の地域での学会や催しにあわせた作品を出品作品に含め、地域とつながりのある雰囲気を作る。展示点数：45 作家 100 点 特集展示 大亦観風の画業を再評価する。所蔵作品のほかに、個人所蔵作品を調査、借用して、展示を構成する。展示点数：1 作家 46 点、資料 2 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 特集展示にあわせ、大亦が加わった「南紀洋画展覧会」と「南紀美術会」のメンバーを、当館のコレクションによって「大亦観風をめぐる人々」のコーナーで紹介した。「海を渡った画家たち」のコーナーでは、石垣栄太郎、ヘンリー杉本など、和歌山出身で移民としてアメリカに渡り、画家となった作家たちの作品、そして「わかやまの名品選」では何度でもご覧いただきたい作品を中心に紹介した。これらの 3 つのコーナーによりコレクションの多彩さを印象づけるとともに、来館者の関心を深めることができた。 特集展示 大亦観風の画業を当館で初めて紹介することができた。所蔵作品のほかに、個人所蔵作品を調査、借用して、展示内容の充実を図ったが、予算の関係上、遠方の主要な作品の借用はかなわなかった。今後の課題としたい。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 リーフレット・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録はシンプルで見やすくデザインし、データを充実させた。 特集展示 A4 判 4 頁のリーフレットと出品目録を制作した。リーフレットには、大亦の画業をわかりやすく紹介したが、紙数により反映できなかった調査内容については、なんらかのかたちでの公開を考えたい。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	
自己評価・課題・改善案	

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 26 年度目標	特集展示 大型地図等を用いて来館者の関心を高める。
自己評価・課題・改善案	常設展示 2 階で開催する夏休みの企画展は、低年齢の観覧者が多く賑やかなため、1 階の常設展示が作品鑑賞に集中できる場所となるよう、年齢が高めの観覧者が関心を持つことが多い近代美術作品の名品を中心に展示を構成した。

	特集展示 明治末から大正初期にかけて大亦が描いた和歌山市の風景と、拡大して床に設置した当時の地図を併せた展示が、来館者の関心を高めた。
--	--

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示 学休期間で、夏期休暇の課題のため来館する、博物館施設にまだなじみのない児童・生徒による事故が予測されるため、見通しの良い展示室構成によって、少ない人数でも監視の目が届くようにした。 特集展示 作品をよく見せるため、屏風はガラスケースに入れずに展示したが、展示台などによる安全確保を行った。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	14,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	11,895 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.2

②常設展-3

コレクション展 2014-秋 特集：没後 50 年：野長瀬晩花

会 期：9月13日（土）～12月7日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	常設展示 和歌山ゆかりの作家の作品から欧米の現代作家まで、多様な美術表現の広がりを紹介することで、コレクションの魅力を紹介する。展示点数：60 作家 100 点 特集展示 本県ゆかりの日本画家である野長瀬晩花の没後 50 年を記念し、その画業を回顧する特集展示を開催する。展示点数：1 作家 45 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 コレクションの多様性を紹介することができた。 特集展示 展示点数：4 作家 91 点。当館所蔵の晩花の代表作はもちろんのこと、画業の初期の資料から、晩年のスケッチブックにいたるまで、関連資料も多数展示し、小規模ながらも晩花の回顧展として完成させることができた。ただ、紙資料の展示にかかるフラットニングなどの処置を施すことができなかったことや、展示作業にかかる時間の予測が甘かったことが反省点である。今後先々の作業を具体的にイメージして準備を行うことが課題である。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録、チラシを制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録には館内外の彫刻作品の地図を掲載した。また出品目録以外にも、展示されている主要作家の似顔絵を入れた作家解説を制作し配布したことは新たな取り組みであり、評価できると考える。この取り組みを継続し、コレクション展の解説を充実させてゆきたい。 特集展示 出品目録、チラシを制作した。パンフレットは制作できなかったが、図録がほしいという来館者の声もあったため、今回の準備調査による成果を将来発表したいと考える。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	特集展示 フロア・レクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	特集展示 フロア・レクチャーを 2 回開催した。今後は可能な限り多めに設定するようにしたい。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 26 年度目標	常設展示 特集展示で日本画を多く展示することから、コレクション展では近代の洋画を中心に展示する。 特集展示 これまで紹介されたことがないデッサン類の整理を行い展示することで、画業をより深く理解してもらえるような構成とする。
自己評価・課題・改善案	常設展示 コレクション展では、特集展示の野長瀬晩花展と対比させ、パンリアル美術協会の作家たちを取り上げることで、現代へとつながる日本画の広がりを示す展示を行った。特集展示で日本画を多く展示することから、コレクション展の名品選では近代の洋画を中心に展示、加えて「うつろいの風景」と題したコーナーを設け版画を中心とした作品紹介を行い、全体としてジャンルや技法のバランスがとれた展示を心がけた。 特集展示 これまで紹介されたことがない、デッサンや資料類の整理を行い展示することで、画業をより深く理解してもらえるような構成とした。図版として世に出ていない作品や、翻刻されていない資料も多く、いずれ何らかの形で紹介したいと考えている。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作品・資料・来館者の安全確保を行った。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	6,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	5,170 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.4

②常設展-4

コレクション展 2014/15-冬 特集：コレクション／ドネーション

会 期：12 月 16 日（火）～平成 27 年 2 月 22 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	常設展示 所蔵作品への理解を深められるよう、テーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：50 作家 80 点 特集展示 所有と公開という切り口から作品への接し方について考える場を作る。展示点数：30 作家 60 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 同時期に開催される『月映』展にあわせた内容とし、「和歌山ゆかりの作家と近代日本の美術」、「死を想う美術」、「抽象のかたち」という3つのコーナーによって展示をおこなった。展示点数：50 作家 95 点 特集展示 「コレクション／ドネーション」では近現代美術の個人コレクターの収集活動と当館への寄贈作品を紹介し、所有と公開という視点から作品への接し方について考える展覧会とした。個人コレクションの寄贈によって当館の収集が充実してきたことを展示によって示すことで、収蔵作品への理解と愛着を高めることができた。コレクション展であるがテレビ、新聞などでも広く取り上げられた。同時期に三重県美術館で全く同名の展覧会が開催されており、相互の情報交換と連携の可能性を探りたい。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 チラシ・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を制作した。 特集展示 パンフレット(A5 判 4 頁)、出品目録(A4 判 8 頁)、英語版概要チラシ(片面 A4 判)

C. 関連事業

平成 26 年度目標	特集展示 地元 NPO と協力して展示をより理解できるよう講演会を 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	NPO 法人和歌山芸術文化支援協会の主催事業に協力し、展示会の内容と関連付けて、和歌山県立図書館 メディア・アートホールで映画『ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人』上映会とアフタートーク(1月11日(日))、当館ホールで映画『ハーブ&ドロシー2 ふたりからの贈りもの』上映会とアフタートーク 1月12日(月・祝)を実施した。フロア・レクチャーは3回実施した。

D. (A, B, C 以外の) 展示会の工夫

平成 26 年度目標	常設展示 新たなテーマや切り口による展示構成により、コレクションをより魅力的にみせる工夫をする。 特集展示 現存の寄贈者については内容への接しやすさを考慮して一人だけを紹介する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 月映展にあわせた展示構成とし、内容を工夫した。月映の3人(田中恭吉、恩地孝四郎、藤森静雄)や関連作家の油彩作品、影響のあったムンク、ルドンといった画家の作品を展示するとともに、死や抽象といった彼らが抱えたテーマを、近現代の作品によって再考できるような内容とした。 特集展示 寄贈者の個人情報に配慮しつつ、寄贈者に対しても親近感を抱ける内容とすることができた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	出品作品・資料・来館者の安全確保をおこなった。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,769 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.4

②常設展-5

コレクション展 2015-春 特集：『版画』の明治—印刷と美術のはざままで

会 期：3月17日(火)～
会 場：展示室 A・B (1階)

A. 展示会の内容・出品作品・構成等

平成 26 年度目標	常設展示 特集展示に合わせて、明治時代の日本画・洋画の展示を行うとともに、和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示する。また、会期中は春休みや5月のゴールデンウィーク等が重なるので心の休息を得られるような展示にする。展示点数:70 作家 90 点 特集展示 美術は身近な産業のなかからも生まれてきたと知ることによって、美術への関心を深める。展示点数:86 作家 230 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示するとともに、企画展に合わせて、現代につながる関西の戦後美術の紹介を行った。常設展の趣旨の理解に時間がかかり、なかなか展示内容が固まらなかったのと、図面から展示空間がイメージできておらず、壁組みの確定にも時間を要したのが課題。今後は当館の名品を主軸にバランスよく作品を選定し、展示空間について十分に研究するよう心がける。展示点数:81 作家 97 点 特集展示:教科書や雑誌、書籍、カレンダーやポスター、新聞附録など、生活のなかにあった優れた技術による印刷物が、創作版画という美術作品としての印刷術の追求の背景にあったということを示し、いまま美術が生活からかけはなれた存在ではないことを伝えた。また、東京中心の印刷史とは異なる関西独特の歴史を紹介することができた。改善案としては、広報の充実をはかりたい。

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 26 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 パンフレット・出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を制作した。 特集展示:ほとんどの来館者にとっては、おそらくはじめて触れる明治期の精緻な印刷による資料を紹介するにあたり、親しみを持っていただけるよう、エッセイを掲載したパンフレットはもとより、出品目録にも解説を加えて語りかけるような雰囲気を作ることにつとめた。

C. 関連事業

平成 26 年度目標	特集展示 フロア・レクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	特集展示 スライドレクチャーを 1 回開催した。取り扱ったジャンルに関心の高い層が参加した。

D. (A, B, C 以外の) 展覧会の工夫

平成 26 年度目標	常設展示 解説キャプションや解説パネルを充実させることによって、魅力的で充実した展示を工夫する。 特集展示 実用印刷の研究によって、コレクションの柱である創作版画誕生の背景を探る。
自己評価・課題・改善案	常設展示 当館のコレクションの核がわかるよう、解説パネルを充実させた。今後は時間に余裕を持ってスケジュールを組み、作家解説や作品解説も盛り込んでいきたい。 特集展示:明治 40 年代にはじまる創作版画の作家たちが、なぜ美術作品としての版画を作ろうとしたのか、その源泉として彼らが生まれ育った時代に発展した印刷術を掘り起こすことで、印刷術として生まれ、発達した版の技術が印刷物への関心を育み、その芸術的な可能性を追求する要素となったことを示した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 26 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品作品・資料・来館者の安全確保を行った。 特集展示:来館者の動線を予測し、無意識に歩いても安全な展示構成を試みた。展示作品は事前にコンディションを整え、展示に際してすべて固定した額装あるいは展示ケースで保護し、同時に観覧に集中できる環境を用意した。

F. 入館者数

平成 26 年度目標	1,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	893 人

G. 入館者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける 10 段階評価の満足度について、平均値を 6 以上にする。
自己評価・課題・改善案	平均値は 8.7

2 調査・研究

美術館長による所見	和歌山県ゆかりの作家等の日常的な調査・研究を、企画展等のかたちでアウトプットしている点は高く評価される。しかし、館発行の印刷物などが限られている中で、十分に研究成果を発表できなかった点は残念である。研究発信の方法についても、一層の工夫が求められる。
評価部会による所見	評価様式のなかの「美術史等」という表現だが、「美術史」に縛られすぎている。美学、博物館学、保存科学も重要なので「等」という表現は使わないでほしい。美術館の世界では、全国的にみて事業に忙しくなり、余力がなくなり、オーソドックスな調査研究が弱体化しつつある。調査研究をきちっと積み重ねている貴重な伝統を絶やさないでほしい。

①調査・研究

A. 美術史等についての調査・研究件数

平成 26 年度目標	美術史等についての調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	10 件の調査・研究を行った。

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

平成 26 年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	2 件の調査・研究を行った。

②調査・研究成果の活用

A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

平成 26 年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	10 件、成果を反映した。

B. 学術的公表（館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等）

平成 26 年度目標	学術的公表（館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等）を行う。
自己評価・課題・改善案	9 件の学術的公表を行った。

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	少ない予算の中で、適切な手続きを踏みつつ貴重な資料が収集できたことは評価できる。とくに、質量ともに優れた美術作品が寄贈によってもたらされたことは、美術館の長くたゆまぬ学芸活動の成果として、高く評価されよう。
評価部会による所見	購入費がついており、切れ目なく収集を続けているのは評価できる。学芸員が信用されているが故の寄贈も多い。

(報告) 平成 26 年 3 月末時点の所蔵作品点数 12,911 点

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

平成 26 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行った。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

平成 26 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	点数、内容は適切であった。

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

平成 26 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用した。

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	新規寄贈作品をはじめ、大量の増加作品の調査、データ収集・整理を、少ないスタッフながら適切かつ持続的に進められたことは評価に値する。作品保存管理にも着実な仕事ぶりが見られるが、必要な修復が予算面もあって十全に行えていないのが課題として残る。
評価部会による所見	修復については、95万円という予算の範囲で努力している。

①作品・資料の状態調査

平成 26 年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品作品と大量の新規寄贈候補作品を中心に、15,225 件の作品の整理と調査、データ採取、写真撮影を進めた。この作業の継続が課題である。

②作品・資料の保存環境

平成 26 年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。節電を目的とした空調の調節と理想的な保存環境の両立が課題である。

③作品・資料の保存修復

平成 26 年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	展示予定作品を中心に修復計画を立て、効果的な修復を行えた。また、作品の保存に適した素材を使った額装も進んでいる。油彩作品の額装の調整を進め、展示と保存に適した状態近づけることが課題である。

④作品・資料の管理

作品・資料の管理（台帳・データベース）

平成 26 年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品・資料の管理を適切に行った。

⑤作品・資料のデータ公開

平成 26 年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会出品目録、新収蔵作品目録を年報に掲載した。

5 教育普及

美術館長による所見	地域の学校との連携や、大学・教育委員会とのコラボなどによって、多彩な教育活動を不断に展開できたことは評価される。情報発信についても、メールマガジンや SNS による新しい試みも行うなど努力が認められる。
評価部会による所見	多彩で活発な活動をしている。学校との連携もおおむね評価できるが、高校生が無料であることをもっと利用してはどうか。大人の予備軍であり、つなぎとめる必要がある。

①学校・団体鑑賞の受入

A. 受入回数

平成 26 年度目標	200 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	133 件を受け入れた。

B. 参加者数

平成 26 年度目標	3,450 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,557 人が参加した。

C. 参加者の満足度

平成 26 年度目標	参加者アンケートにおける10段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	[平成 26 年度は参加者満足度調査を行っていない]

D. 鑑賞教材等の制作

平成 26 年度目標	鑑賞教材を制作する
自己評価・課題・改善案	なつやすみの美術館展で鑑賞教材を 5 種類制作した。

②講演会・解説会等

A. 講演会等の回数

平成 26 年度目標	49 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	53 回実施した。

B. 講演会等の参加者数

平成 26 年度目標	612 人を目標とする。(講演会 3 回×20 名、フロアレクチャー等 46 回×12 名)
自己評価・課題・改善案	978 人参加した。

C. 参加者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける 10 段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	[平成 26 年度は満足度調査を行わなかった]

③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

A. ワークショップ等の回数

平成 26 年度目標	2 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	2 回実施した。(バックヤードツアー1 回、ダンスワークショップ 1 回)

B. ワークショップ等の参加者数

平成 26 年度目標	40 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	36 人参加した。

C. 参加者の満足度

平成 26 年度目標	入館者アンケートにおける 10 段階評価の満足度について、平均値を6以上にする。
自己評価・課題・改善案	[平成 26 年度は満足度調査を行わなかった]

④県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

平成 26 年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる
自己評価・課題・改善案	受け入れた。

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

平成 26 年度目標	友の会、NPO 和歌山芸術文化支援協会等の支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	協力した。

C. 学校・教員等と連携した事業

平成 26 年度目標	和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展示会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。中学校からの夏休み中の宿題での来館を呼びかけ、期間中の展示の概要紹介、前年までの事例紹介、宿題を出す際の課題等について情報を交換する場を設ける。
自己評価・課題・改善案	目標を達成した。

D. 地域と連携した事業

平成 26 年度目標	地域と連携した事業を行う。第 69 回 和歌山県美術展覧会(県展)を文化国際課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサート等への事業協力を行う。わかやま出合いの広場婚活イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第 69 回県展を文化国際課との連携のもとに実施した。県警音楽隊たそがれコンサート等への事業協力を行った。婚活イベント等への事業協力を行った。

E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

平成 26 年度目標	県立4館が連携して風土記祭り及びスタンプラリーを実施する。地震や水害等によって被災する可能性がある県内の文化財等の保全を図るため、日頃から連絡・連携・協力体制を築き、文化財の救援・保全事業に関わる各関係機関・団体との連携・協力の下に必要な活動を行うことを目的とするため「和歌山県博物館施設等連絡会議」の設置に向け活動する。
自己評価・課題・改善案	県立4館が連携して風土記祭り及びスタンプラリーを実施した。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の設置に向け活動した。

F. 観光資源として活用できる方策

平成 26 年度目標	黒川紀章建築の魅力をわかりやすくまとめ印刷物やホームページ等で発信することにより来館者増につなげる。
自己評価・課題・改善案	黒川紀章建築の魅力を当館ニュースにわかりやすくまとめた。

⑤人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

平成 26 年度目標	博物館実習生・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	受け入れた。

⑥機関誌「NEWS」の刊行

平成 26 年度目標	機関誌を年4回定期的に刊行する。
自己評価・課題・改善案	年4回定期的に刊行した。

⑦県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

平成 26 年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	16 件に対応した。

⑧メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

平成 26 年度目標	掲載 150 件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	152 件掲載された。

⑨WEB による広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

平成 26 年度目標	ホームページ月間ページビュー数 15,000 件、更新回数は 24 回を目標とする。ホームページに工夫する。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ページビュー数は 20697 件、更新回数は 64 回であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

平成 26 年度目標	12 回を目標とする。メールマガジンに工夫する。
自己評価・課題・改善案	12 回発行した。

⑩広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

平成 26 年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	広報印刷物を制作し、情報提供・広報活動に努めた。

6 国内外との連携

美術館長による所見	資料の貸出しや、展覧会巡回による国内他館との連携を着実に進め、また諸学会と研究会を共同開催するなど、堅実な活動を行っていることは評価できる。
評価部会による所見	国内の美術館との連携・交流は多いと考える。貸出も多い。この美術館の知名度が比較的高いのは、活発に活動をしているから。

①他機関への作品・資料の貸出し

平成 26 年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	13 件の展覧会に作品の貸付を行った。

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

平成 26 年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。
自己評価・課題・改善案	10 件の事業展開を行った。

7 安全と快適性

美術館長による所見	施設・設備については、今日公共施設に求められる最低限のレベルを保持すべく、維持管理・修繕などが適切に行われているが、なおバイリンガル表示など達成できていない面もあるので、一層の努力が必要である。危機管理、利用者ニーズの掘り起こしにもさらに工夫が求められる。
評価部会による所見	アンケートの展覧会満足度はあくまで参考程度に留めるべき。客観的な指標にはなりえない。どこから来たか、何をみてきたかというようなデータは重要だが、施設の管理はよく維持できているような印象を受けるが、開館後 20 年経過するといろいろ課題がでてくるので留意してほしい。外国人の旅行者も訪れるようだが、バイリンガル表示は必要。

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

平成 26 年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	施設・設備の定期的な保守管理、日常のメンテナンスを行うと共に、経年劣化等による修繕を行うことにより安全確保を行った。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

平成 26 年度目標	火災報知設備更新工事をはじめ施設・設備の改修や新たな整備を行う。
自己評価・課題・改善案	火災報知設備の更新を行い、緊急事態に対応できるように整備した。

C. 日常的なメンテナンス等による施設の美観の保持・衛生管理

平成 26 年度目標	日常的なメンテナンス等により施設の美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日々メンテナンスを行い設備の保持、施設の美観等衛生管理を行った。

D. 長期修繕計画

平成 26 年度目標	長期修繕計画を整備する。
自己評価・課題・改善案	経年劣化による修繕箇所を把握し、展示室の照明器具、自動ドア、空調設備等の修繕を予算の範囲内で実施した。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

平成 26 年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	案内板等に英語表記を加えるよう 27 年度予算措置を行った。高齢者への貸出用ステッキを配置した。

B. 利用者に対する接遇

平成 26 年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

平成 26 年度目標	温水洗浄トイレを整備する。
自己評価・課題・改善案	温水洗浄トイレに改修した。トイレの表示をはじめとする館内サインや案内図の改善を行った。エントランスの照明を改善した。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

平成 26 年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	火災報知設備の更新に伴い、実施訓練を実施した。

B. 個人情報の保護・データ管理

平成 26 年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	講演会等の展覧会関連事業開催に伴う参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

平成 26 年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり 2 回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	研修への参加には、できる限り対応したが、目標の各職員 2 回以上は達成できなかった。今後は自己研鑽を高めるため、業務に支障ない範囲で研修に参加するよう努める。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

平成 26 年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	平成 27 年度中に方針を決定する。

B. 実績や評価結果の公開

平成 26 年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	平成 27 年度中に方針を決定する。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

平成 26 年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

平成 26 年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

平成 26 年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	温水洗浄トイレに改修した。トイレの表示をはじめとする館内サインや案内図の改善を行った。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	入場者数、収入の両面で目標達成ができなかった点は評価できない。しかし、今少しの改善で達成できるレベルなので、さらに集客手法や事務の見直しなどの精査を行うことで、達成できるよう努力することが望まれる。
評価部会による所見	入館料や駐車場収入を目標に掲げることに(1名の評価委員が)反対。 65歳以上の無料を廃止する自治体が出ているが、それについて(別の1名の評価委員が)反対。和歌山の65歳以上無料は維持してほしい。

①入場者数

A. 入場者数

平成26年度目標	入場者数は50,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	平成26年度入館者数は45,647人で目標の5万人を達成できなかった。今後はさらに広報活動を工夫し集客力のアップを目指す。

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

平成26年度目標	当初予算4,332千円に対する達成率を100パーセントとする。(財政課内示により4,478千円に修正)
自己評価・課題・改善案	入館料収入は3,676千円、達成率82パーセントで目標を達成できなかった。今後は有料入館者数の増加を目指すべく広報活動の充実を図る。

B. その他の収入確保

平成26年度目標	駐車場収入7,571千円、行政財産使用料1,588千円、その他899千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	行政財産使用料は1,588千円の目標を達成したが、駐車場収入6,657千円その他収入が625千円で目標を達成できなかった。今後は収入確保のため、美術館・博物館の利用促進のため広報活動の充実を図る。

C. 外部助成金等の獲得

平成26年度目標	助成金1,000千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	外部助成金については、資生堂からの200千円しか獲得できなかった。今後は獲得に向け一層の努力を行う。